

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2093200034		
法人名	社会福祉法人 ハイネスライフ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 グループホーム朝日		
所在地	上高井郡高山村大字牧103番地1		
自己評価作成日	平成22年9月14日	評価結果市町村受理日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同一敷地内に老健、特養、デイケア、居宅の施設が併設している為、医療(リハビリ含む)、急変時(夜間含む)の対応や行事の参加、交流等の協力体制が確立されている。又、天然温泉が引いてあるので24時間いつでも入りたい時に入浴する事が可能である。周囲は山に囲まれ、自然豊かな静かな環境であり、散歩では近くに公園があり、四季折々の景色が楽しめる。 職員は若く、バイタリティーがある。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2093200034&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2093200034&amp;SCD=320</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所して2年目であり、事業所としては諸事に対して検討、研究しながらの対応になっているが、併設事業所として特養、老健などがあり有機的な連携が行われ、単独事業所と比べると多くのメリット(医療・災害協力、地域からの理解、各種の行事への参加と交流、諸設備の活用など)を得ながらの運営になっている。とすると、併設事業所の陰になり易いが認知症対応のプロ集団として周辺地域へ発信していく積極的活動がこれから事業所に求められる。行政との良好な協力関係、管理者、職員同士のコミュニケーションの良さ、一人ひとりの尊厳に配慮した抑圧感のない暮らし作り、希望に沿った入浴支援など法人の理念にある「お年寄りが何をしてほしいのかを考える」ことの実践のため、事業所の内外の環境を整えることを土台として、利用者に正面から、真摯に向き合い日々その実現に向けて取り組んでいる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年9月30日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(さくら)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(いちい)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念、ホームとしての目標を常に職員の目の届くところに掲示し、全職員で共有している。	法人の理念を土台として、事業所の目標を「報連相を大切にしよう。」と全職員で検討して決め、日々のサービスの中で実践している。	事業所独自の理念がないので、地域密着型を踏まえて、利用者へのサービスのあり方、職員のあるべき姿勢、地域との関係性が盛り込まれた理念を作り上げることが期待されます。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より、地区区長と話し合いの場をもち、村祭りの参加、育成会との交流を検討している。	事業所周辺には近隣住民が少なく、日常的な交流は困難が多いが、併設する特養・老健を訪れる小・中学生との交流や併設する事業所の行事やボランティア団体の催し物に参加して、近隣の方との交流を図っている。開設して日が浅く、併設事業所の陰になり易いがグループホームとして地域に積極的に出掛けることを検討している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市町村職員、包括センター職員、地区の民生員及び区長等が参加する運営推進会議において、毎月の取り組みや状況を説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を職員会議で報告し、助言頂いた内容について職員間での意見交流を行っている。	2か月に1度開催され、地域、行政、家族が参加し、事業所の現状が透明性を持って報告されている。委員からの意見も多く、双方向的な会議になっている。会議内容は職員に共有化され、課題等については速やかに対応するよう努めている。	委員構成に福祉関係者が多くなっている。事業所を利用するのは福祉のことをあまり知らない人が多いので、その方たちの立場から見ても理解できる事業所作りが大切であるので、ご家族や地域の方の参加人数を増やすことを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長野圏域グループホーム連絡会へ参加し、情報交換、勉強会を行っている。又、職場でその内容を職員に報告し、実施している。	運営推進会議に行政の役職員が参加し、事業所の現場を把握しているので、良好な協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の議題として全職員で共有認識をはかれる様にしている。又、法人内での勉強会に参加している。	職員会議や法人内研修を通じて、「身体拘束しないケア」について、職員の共有認識は出来ている。転倒防止対策のセンサーマットを活用したり、外出したがる利用者と落ち着いてゆっくり話すなど拘束しないことにより生ずるリスクを最小限にするよう取り組みながら、「抑圧感のない暮らし」作りに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会に参加し、勉強する機会を設けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会に参加し、勉強する機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接の中で書面を確認しながら口頭で説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、家族会は発足しておらず面会の際に、時間を作り話し合いができるように工夫している。家族会については今後発足に向けて検討する。	面会時を利用したり、毎月の利用料の請求を電話で伝え、その際利用者の暮らしぶりを報告しながら、ご家族の意見や思いを聞いている。利用料は現金払いになっているので、ご家族は毎月事業所を訪れることになり、良好な関係作りの土台にもなっている。又、たよりも年4回発行し、行事などの思い出、ご家族があまり知らない利用者の意外な笑顔などが伝えられ、ご家族の安心を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送りや職員会議において、どんな意見でも提案できる雰囲気作りに努めている。	職員会議やミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からも「自分の思いが伝えられている。」と伺い、良好な関係となっている。年末に職員アンケートを行い、それを踏まえての管理者との個別面談もあり、相互により良いコミュニケーション作りをして、事業所を支えて行こうと努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に各職員にアンケートをとり、勤務状況等についての希望を言える機会を設けている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修会や外部研修への参加の機会を設けている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループホーム連絡会へ参加し、他ホームとの意見交換を行い質の向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、管理者、CMと家族、本人が面談し、事前に現在の状態や入所に関する疑問等を話し合い信頼関係の構築に努めている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、CMが家族と面談し、入所に関しての家族の思い、意向、要望等を伺う機会を設けている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にともない、事前に利用されているサービス事業者やCM等から情報提供を行い家族だけでなく他者からの情報を含めた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の持っている力を発揮できる場面を持ち、得意分野を発見する努力をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、面会、外出等の機会を多くし、入所者本人を支える事に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の方の面会の機会を多くもてるよう支援すると共に、馴染みのある場所への外出する機会を設けるように努めている。	面会や外出の機会を設けて、馴染みの人や場所との関わりを持てるようにして、これまでの暮らしの継続性が維持できるよう努めている。同級生が訪ねて来たり、生家や墓参りに出掛けたり、孫からの手紙が届く利用者も居ることを伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、入居者の関係や利用者同士の思い等を聴きながら利用者個々との会話ができる機会を設けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報の保管をし必要に応じ情報の提供を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から、生活の希望や意向をつかむ共に、過去の生活歴等を含むし沿える様に努めている。	フェイスシートを活用して生活歴・得意分野・価値観などを把握して、利用者の願いや思いを理解するよう取り組んでいる。希望により外食に行くこともあるが、必ず、ご家族に相談してから行動するよう対応し、ご家族と事業所との連携を大切にしている。畑作業・花作り・書道・絵手紙など行ってきたが、継続できないものもある。「今、利用者が何をしたいのか」事業所は常に自分に問いかけ、利用者に応えられるよう模索している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を得ると共に以前に利用のある事業所からの情報提供をうける。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活のリズムを把握し、状況の変化に気付ける様注意し又、アセスメントシートの活用と定期的見直しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期及び必要に応じ、職員間でのケアカンファレンスを行うと共に家族との話し合いの場を設けている。	面会時を通じて、ご家族の意見を取り入れ、センター方式を活用した課題分析を行い、計画作成担当者がカンファレンスを経て、介護計画を作成している。月に1度は実施状況を把握し、3か月毎に計画を見直し、心身の状況変化に応じた見直しもを行っている。利用者の担当制があり、介護計画への見直しなどへの提言は積極的に行っている。介護計画の支援経過記録と日常生活記録との区分をして、モニタリング、評価に繋げ易い様式を検討することを望みます。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケース記録の記入を随時行い、各自確認を行う。又、必要な情報等申し送りを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々ニーズに対応し、自施設だけでなく隣接施設の利用を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生員と協力依頼すると共に、地区で行われる行事への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に主治医の確認をし、必要に応じ、定期での往診、受診を行う。又、緊急時の対応を確認し連携をとれる対応を行っている。</p>	<p>利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっており、往診に来てくれるかかりつけ医も居る。受診等の付き添いは主としてご家族が行い、職員が代行しても医院等でご家族と待ち合わせするなど、連携を大切にしている。医療連携体制があり、医療面での安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>併設の施設の看護師に緊急時及び、利用者の体調不調の時に対応頂き、指示等を受けて対応している。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、家族、病院へ連絡、情報を得ると共に面会等による本人の状態の確認を行い今後の方針を検討している。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族との話し合いの場を設け、今後の支援について検討する。又、主治医と連携を行い、支援方法や当施設でのケア方法等を話し合っている。</p>	<p>終末期への対応指針があり、ご家族への周知・理解は得ている。医療処置が大きかったり、痛みが生ずるような場合は、併設事業所との有機的連携を踏まえながら対応している。事業所の出来ること、出来ないことを見極めて、事業所を取り巻く医療・福祉との協力関係を築きながら利用者等の支援に繋がるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルの設置とともに、併設施設との連携をはかる。又、消防署主催の救命講習への参加、看護師による医療講習を行っている。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練の実施と消防署、消防団との連携をはかっている。</p>	<p>年2回の避難誘導訓練の実施、自動通報装置やスプリンクラーの設置などの防災設備の完備、消防署や消防団との連携など防災に関する対策は十分に出来ている。手薄になる夜間は併設事業所の協力が得られる体制になっている。居室側からの非常口の段差は重度化した場合でも活用できるよう工夫されることを望みます。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり利用者様である事を念頭におき、人格を尊重し、プライバシーを配慮した対応を心掛け、言葉づかいや所作を行っている。	「人生の先輩」「その人らしい生活の継続」「利用者と時間を共にしたい」「事業所を自分の家のように感じてもらいたい」などの職員の言葉にあるように1人ひとりの人格を尊重した介護が職員の中に浸透し、常に実践に繋がるよう取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で信頼関係の構築に努め、利用者本人希望や思いを表にだせるように配慮し、希望に添えられるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活の中で培われた習慣や生活リズムを大切に、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を行えるように努め、TPOに応じた身だしなみ等の支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった献立の提供や、畑で採れた野菜を調理し食して頂いている。又、個々の好き嫌いも把握し、楽しんで頂ける食事提供を行っている。	調理は外部委託しており、事業所では盛り付けから食器拭きまでの作業を、利用者の心身の状態に応じて職員と一緒にしている。委託業者を交えての栄養委員会で利用者の希望する献立が提案されている。季節感のある食事、各地の郷土料理、時には畑で採れた野菜を利用したの事業所独自の献立など業者委託による多様性・融通性などのメリットを十分に活かした食事を提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々を観察し、声かけを行い、食事量や水分量のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他、個々の状態に合わせた見守り、介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導の際に、個々の動作やサインを読み取り状況にあった支援を行っている。	排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けにより、排泄行為が改善された利用者もあり、一人ひとりの支援に向けて努力している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や、主治医、看護師、隣接の管理栄養士との連携や負担にならない程度での運動を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を個々の希望に合わせてたり、足湯や季節毎のイベント浴等を工夫している。又、清潔保持に努めている。	1人最低週2回、1日5人位、午後、天然温泉を利用して入浴を行っている。足浴も含めて毎日入浴する方、個々の希望に合わせた入浴時間など職員配置を多くしながら、利用者の希望に沿った入浴となるよう取り組んでいる。菖蒲湯、りんご湯、入浴剤なども取り入れ、楽しい入浴となるよう工夫もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人にあった休める空間を提供し、柔軟な対応を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員会議で勉強会を行う他、申し送りや主治医、看護師の指示や確認を受け話し合いを行い理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに役割を持っていただき、季節行事やおやつ作りを通して楽しんで関わられるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者、家族と日程等を計画している。又、季節感を感じて頂ける様な場所等を計画している。	外気浴や気分転換のため、日常的には事業所周辺にある公園などに出掛けたり、併設事業所を訪ねたりして、五感の刺激を得ている。寿司外食、花見、雛人形鑑賞、買い物外出など、遠出の外出もあり、戸外に出る機会を多く持てるよう努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理困難の為、家族や本人にも了承を得て事務所に預かり、外出の際にご本人で管理できるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望に応じて対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手造りの作品や季節にあった花を飾ったり、個々が不快にならないよう配慮を行い居心地の良い空間づくりを心掛けている。	玄関は別々であるが、中央の事務所を通路にして、両ユニットは行き来しての交流ができて、ボランティアの催しなどの際には、一方のユニットに集まって行われている。居間兼食堂は若干狭く、台所のスペースを利用して食堂の一部にしている。利用者が思い思いに過ごしたり、両ユニットが気軽に交流したり、地域や子供たちを招いて交流するには狭い空間となっている。冷暖房完備、トイレの十分な広さ、小さな三角スペースの利用など居心地よい空間作りもしている。	中庭を有効利用して、ゆったりと寛げる共用空間を利用者に提供出来るよう工夫されることを期待します。又、運営推進会議の委員に共用空間の飾り付け、居心地の良さなどの感想を聞く機会を作り、利用する立場や第三者から見える事業所の現状を知る機会を作られることを望みます。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアでのソファの活用や、食事席の移動等を配慮して居場所の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族や利用者と相談し馴染みの品等を置いていただいたり、生活の中で本人の趣向に沿った居室作りに努めている。	タンス・仏壇・椅子・テレビ・写真など利用者の馴染みの物を配置した部屋作りをしている。多くの物が入り手狭になっている部屋やシンプルな部屋があったりと、利用者のご家族で、個性的で自らが馴染めるような居室作りがされていた。床暖房、クーラー、空気清浄機、ベッド、収納棚と事業所で準備し、居心地よく過ごせるような基本的環境が整えられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し、よりよく生活して頂ける様、配慮し工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念、ホームとしての目標を常に職員の目の届くところに掲示し、全職員で共有している。	法人の理念を土台として、事業所の目標を「報連相を大切にしよう。」と全職員で検討して決め、日々のサービスの中で実践している。	事業所独自の理念がないので、地域密着型を踏まえて、利用者へのサービスのあり方、職員のあるべき姿勢、地域との関係性が盛り込まれた理念を作り上げることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より、地区区長と話し合いの場をもち、村祭りの参加、育成会との交流を検討している。	事業所周辺には近隣住民が少なく、日常的な交流は困難が多いが、併設する特養・老健を訪れる小・中学生との交流や併設する事業所の行事やボランティア団体の催し物に参加して、近隣の方との交流を図っている。開設して日が浅く、併設事業所の陰になり易いがグループホームとして地域に積極的に出掛けることを検討している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市町村職員、包括センター職員、地区の民生員及び区長等が参加する運営推進会議において、毎月の取り組みや状況を説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を職員会議で報告し、助言頂いた内容について職員間での意見交流を行っている。	2か月に1度開催され、地域、行政、家族が参加し、事業所の現状が透明性を持って報告されている。委員からの意見も多く、双方向的な会議になっている。会議内容は職員に共有化され、課題等については速やかに対応するよう努めている。	委員構成に福祉関係者が多くなっている。事業所を利用するのは福祉のことをあまり知らない人が多いので、その方たちの立場から見ても理解できる事業所作りが大切であるので、ご家族や地域の方の参加人数を増やすことを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長野圏域グループホーム連絡会へ参加し、情報交換、勉強会を行っている。又、職場でその内容を職員に報告し、実施している。	運営推進会議に行政の役職員が参加し、事業所の現場を把握しているので、良好な協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の議題として全職員で共有認識をはかれる様にしている。又、法人内での勉強会に参加している。	職員会議や法人内研修を通じて、「身体拘束しないケア」について、職員の共有認識は出来ている。転倒防止対策のセンサーマットを活用したり、外出したがる利用者と落ち着いてゆっくり話すなど拘束しないことにより生ずるリスクを最小限にするよう取り組みながら、「抑圧感のない暮らし」作りに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会に参加し、勉強する機会を設けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会に参加し、勉強する機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接の中で書面を確認しながら口頭で説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、家族会は発足しておらず面会の際に、時間を作り話し合いができるように工夫している。家族会については今後発足に向けて検討する。	面会時を利用したり、毎月の利用料の請求を電話で伝え、その際利用者の暮らしぶりを報告しながら、ご家族の意見や思いを聞いている。利用料は現金払いになっているので、ご家族は毎月事業所を訪れることになり、良好な関係作りの土台にもなっている。又、たよりも年4回発行し、行事などの思い出、ご家族があまり知らない利用者の意外な笑顔などが伝えられ、ご家族の安心を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送りや職員会議において、どんな意見でも提案できる雰囲気作りに努めている。	職員会議やミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からも「自分の思いが伝えられている。」と伺い、良好な関係となっている。年末に職員アンケートを行い、それを踏まえての管理者との個別面談もあり、相互により良いコミュニケーション作りをして、事業所を支えて行こうと努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に各職員にアンケートをとり、勤務状況等についての希望を言える機会を設けている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修会や外部研修への参加の機会を設けている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループホーム連絡会へ参加し、他ホームとの意見交換を行い質の向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、管理者、CMと家族、本人が面談し、事前に現在の状態や入所に関する疑問等を話し合い信頼関係の構築に努めている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、CMが家族と面談し、入所に関しての家族の思い、意向、要望等を伺う機会を設けている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にともない、事前に利用されているサービス事業者やCM等から情報提供を行い家族だけでなく他者からの情報を含めた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の持っている力を発揮できる場面を持ち、得意分野を発見する努力をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、面会、外出等の機会を多くし、入所者本人を支える事に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の方の面会の機会を多くもてるよう支援すると共に、馴染みのある場所への外出する機会を設けるように努めている。	面会や外出の機会を設けて、馴染みの人や場所との関わりを持てるようにして、これまでの暮らしの継続性が維持できるよう努めている。同級生が訪ねて来たり、生家や墓参りに出掛けたり、孫からの手紙が届く利用者も居ることを伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、入居者の関係や利用者同士の思い等を聴きながら利用者個々との会話ができる機会を設けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報の保管をし必要に応じ情報の提供を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から、生活の希望や意向をつかむ共に、過去の生活歴等を含むし沿える様に努めている。	フェイスシートを活用して生活歴・得意分野・価値観などを把握して、利用者の願いや思いを理解するよう取り組んでいる。希望により外食に行くこともあるが、必ず、ご家族に相談してから行動するよう対応し、ご家族と事業所との連携を大切にしている。畑作業・花作り・書道・絵手紙など行ってきたが、継続できないものもある。「今、利用者が何をしたいのか」事業所は常に自分に問いかけ、利用者に応えられるよう模索している	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を得ると共に以前に利用のある事業所からの情報提供をうける。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活のリズムを把握し、状況の変化に気付ける様注意し又、アセスメントシートの活用と定期的見直しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期及び必要に応じ、職員間でのケアカンファレンスを行うと共に家族との話し合いの場を設けている。	面会時を通じて、ご家族の意見を取り入れ、センター方式を活用した課題分析を行い、計画作成担当者がカンファレンスを経て、介護計画を作成している。月に1度は実施状況を把握し、3か月毎に計画を見直し、心身の状況変化に応じた見直しもを行っている。利用者の担当制があり、介護計画への見直しなどへの提言は積極的に行っている。介護計画の支援経過記録と日常生活記録との区分をして、モニタリング、評価に繋げ易い様式を検討することを望みます。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケース記録の記入を随時行い、各自確認を行う。又、必要な情報等申し送りを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々ニーズに対応し、自施設だけでなく隣接施設の利用を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生員と協力依頼すると共に、地区で行われる行事への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に主治医の確認をし、必要に応じ、定期での往診、受診を行う。又、緊急時の対応を確認し連携をとれる対応を行っている。</p>	<p>利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっており、往診に来てくれるかかりつけ医も居る。受診等の付き添いは主としてご家族が行い、職員が代行しても医院等でご家族と待ち合わせするなど、連携を大切にしている。医療連携体制があり、医療面での安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>併設の施設の看護師に緊急時及び、利用者の体調不調の時に対応頂き、指示等を受けて対応している。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、家族、病院へ連絡、情報を得ると共に面会等による本人の状態の確認を行い今後の方針を検討している。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族との話し合いの場を設け、今後の支援について検討する。又、主治医と連携を行い、支援方法や当施設でのケア方法等を話し合っている。</p>	<p>終末期への対応指針があり、ご家族への周知・理解は得ている。医療処置が大きかったり、痛みが生ずるような場合は、併設事業所との有機的連携を踏まえながら対応している。事業所の出来ること、出来ないことを見極めて、事業所を取り巻く医療・福祉との協力関係を築きながら利用者等の支援に繋がるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルの設置とともに、併設施設との連携をはかる。又、消防署主催の救命講習への参加、看護師による医療講習を行っている。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練の実施と消防署、消防団との連携をはかっている。</p>	<p>年2回の避難誘導訓練の実施、自動通報装置やスプリンクラーの設置などの防災設備の完備、消防署や消防団との連携など防災に関する対策は十分に出来ている。手薄になる夜間は併設事業所の協力が得られる体制になっている。居室側からの非常口の段差は重度化した場合でも活用できるよう工夫されることを望みます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり利用者様である事を念頭におき、人格を尊重し、プライバシーを配慮した対応を心掛け、言葉づかいや所作を行っている。	「人生の先輩」「その人らしい生活の継続」「利用者と時間を共にしたい」「事業所を自分の家のように感じてもらいたい」などの職員の言葉にあるように1人ひとりの人格を尊重した介護が職員の中に浸透し、常に実践に繋がるよう取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で信頼関係の構築に努め、利用者本人希望や思いを表にだせるように配慮し、希望に添えられるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活の中で培われた習慣や生活リズムを大切に、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を行えるように努め、TPOに応じた身だしなみ等の支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった献立の提供や、畑で採れた野菜を調理し食して頂いている。又、個々の好き嫌いも把握し、楽しんで頂ける食事提供を行っている。	調理は外部委託しており、事業所では盛り付けから食器拭きまでの作業を、利用者の心身の状態に応じて職員と一緒にしている。委託業者を交えての栄養委員会で利用者の希望する献立が提案されている。季節感のある食事、各地の郷土料理、時には畑で採れた野菜を利用したの事業所独自の献立など業者委託による多様性・融通性などのメリットを十分に活かした食事を提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々を観察し、声かけを行い、食事量や水分量のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアの他、個々の状態に合わせた見守り、介助を行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>定時誘導の際に、個々の動作やサインを読み取り状況にあった支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けにより、排泄行為が改善された利用者もあり、一人ひとりの支援に向けて努力している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>飲食物の工夫や、主治医、看護師、隣接の管理栄養士との連携や負担にならない程度での運動を行っている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴時間を個々の希望に合わせてたり、足湯や季節毎のイベント浴等を工夫している。又、清潔保持に努めている。</p>	<p>1人最低週2回、1日5人位、午後、天然温泉を利用して入浴を行っている。足浴も含めて毎日入浴する方、個々の希望に合わせた入浴時間など職員配置を多くしながら、利用者の希望に沿った入浴となるよう取り組んでいる。菖蒲湯、りんご湯、入浴剤なども取り入れ、楽しい入浴となるよう工夫もしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人にあった休める空間を提供し、柔軟な対応を行っている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員会議で勉強会を行う他、申し送りや主治医、看護師の指示や確認を受け話し合いを行い理解を深めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに役割を持っていただき、季節行事やおやつ作りを通して楽しんで関わられるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者、家族と日程等を計画している。又、季節感を感じて頂ける様な場所等を計画している。	外気浴や気分転換のため、日常的には事業所周辺にある公園などに出掛けたり、併設事業所を訪ねたりして、五感の刺激を得ている。寿司外食、花見、雛人形鑑賞、買い物外出など、遠出の外出もあり、戸外に出る機会を多く持てるよう努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理困難の為、家族や本人にも了承を得て事務所に預かり、外出の際にご本人で管理できるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望に応じて対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手造りの作品や季節にあった花を飾ったり、個々が不快にならないよう配慮を行い居心地の良い空間づくりを心掛けている。	玄関は別々であるが、中央の事務所を通路にして、両ユニットは行き来しての交流ができて、ボランティアの催しなどの際には、一方のユニットに集まって行われている。居間兼食堂は若干狭く、台所のスペースを利用して食堂の一部にしている。利用者が思い思いに過ごしたり、両ユニットが気軽に交流したり、地域や子供たちを招いて交流するには狭い空間となっている。冷暖房完備、トイレの十分な広さ、小さな三角スペースの利用など居心地よい空間作りもしている。	中庭を有効利用して、ゆったりと寛げる共用空間を利用者に提供出来るよう工夫されることを期待します。又、運営推進会議の委員に共用空間の飾り付け、居心地の良さなどの感想を聞く機会を作り、利用する立場や第三者から見える事業所の現状を知る機会を作られることを望みます。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアでのソファの活用や、食事席の移動等を配慮して居場所の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族や利用者と相談し馴染みの品等を置いていただいたり、生活の中で本人の趣向に沿った居室作りに努めている。	タンス・仏壇・椅子・テレビ・写真など利用者の馴染みの物を配置した部屋作りをしている。多くの物が入り手狭になっている部屋やシンプルな部屋があったりと、利用者のご家族で、個性的で自らが馴染めるような居室作りがされていた。床暖房、クーラー、空気清浄機、ベッド、収納棚と事業所で準備し、居心地よく過ごせるよう基本的環境が整えられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し、よりよく生活して頂ける様、配慮し工夫している。		